

京都教区 共同宣教司牧ブロック  
担当司祭および信徒の皆さんへ

京都司教 パウロ大塚喜直

**2021年 司教年頭書簡**  
**『すべてのいのちを守るため』II**  
**～コロナ時代を生きる信仰～**

**2021年の年頭書簡と司教訪問の趣意書**

**1. 2021年の京都教区のテーマ**

今世界は、2020年3月から始まった新型コロナウイルス感染症（COVID-19）によるパンデミックに脅かされています。毎日のニュースは、コロナのことばかりで、生活も心配です。多くの方が、コロナ感染で苦しんでいます。来年もコロナ禍の終息を祈りながら、感染防止と社会生活の両立を模索する日々が続けなければなりません。

自粛生活を経験した多くの方は、目標をもち計画を立てて営んでいた生活のリズムが大幅に変化し、そのためネガティブな気分になった一方で、時間が経過する中で、何か心の変化を感じたと思います。たとえそれを言葉にしなくても、自分を見つめ、自分の生きがいや、人生の意味について問いかけていたのではないのでしょうか。信徒の皆さんはミサが中止という事態に戸惑いながらも、各自の信仰生活について振り返る時間をもつことができたのではないのでしょうか。わたしたちキリスト者はただこの状態を我慢するだけでなく、コロナ禍による現実を信仰で受けとめ、『すべてのいのちを守るため』（教皇フランシスコ2019訪日テーマ）の行動を続けながら、コロナ時代を生きる信仰について、その根本から見つめ、深めたいと思います<sup>i</sup>。

そこで、来年の年頭書簡は、『すべてのいのちを守るため』II、コロナ時代を生きる信仰、とします。わたしたちは、自分の信仰や、生活を、反省するよい機会として、すごしましょう。

**2. 司教訪問**

コロナの感染状況の予測がつきませんので、わたしは主日のミサを司式するために各小教区を訪問しますが、司教講話は行いません。（司教スケジュールにも記載しません）

---

<sup>i</sup> 2013年信仰年の年頭書簡で取りあげた「12の信仰のセンス」を参照。1人格的センス、2発見するセンス、3認識するセンス、4キリスト論的センス、5秘跡的センス、6実践的センス、7救済的センス、8統合的センス、9批判的センス、10共同体的センス、11聖霊によるセンス、12マリア的センス。

参照：教皇フランシスコ、『パンデミック後の選択』（カトリック中央協議会、2020）